

## 事業所自己評価シート

令和 5 年度

### 職員による自己評価

#### A 環境・体制整備

- ① 狭いスペースであるが、ドライブ、散歩等外活動で室内に集中しないよう活動を分散している。
- ② 活動場所や部屋数により職員数が追いつかない時がある。
- ③ 階段の手すりはあるが急で危険。職員の付き添い等ソフト面で安全安心を確保。
- ④ 病気、怪我等で欠員状態が慢性化している。

#### B 業務改善等

- ① 保護者様との話し合い、情報共有が改善
- ② 業務処理方法の見直改善と無駄の排除。
- ③ 業務システムソフト導入による効率化を期待。職員研修の機会は増えつつある。

#### C 児童への適切な支援の提供

- ① 適切なアセスメント力の強化を行う。
- ② 個別目標に沿った個々に応じた活動が少ない。ツールをより洗練、定量化する余地はある。
- ③ 職員間打合せはその日のリーダー職員を決め、リーダー主体で進行している。
- ④ 定期的モニタリングは、本人の変化に応じた細かな計画見直しが不足。記録の共有に課題。

#### D 保護者様、関係機関との連携

- ① 保護者会等の再開で保護者との関係性を強化。
- ② 計画相談事業所、行政機関、学校、同業者等関係機関との連携を強化する。
- ③ 療育センター、発達支援センター等専門機関との連携を増やし、助言、研修等の機会を持つ。

#### D 保護者への説明責任と非常時対応

- ① マニュアル類の整備によるリスク管理強化
- ② いっぱい通信、ブログ等で情報発信力強化
- ③ 防災訓練の継続と強化。有事に動ける体制作りと訓練で習得
- ④ 虐待防止・身体拘束の周知徹底と定期的研修)
- ⑤

### 保護者による評価

- ① 1階は広く過ごしやすさを感じるが、2階への階段が急すぎ心配

#### B 児童への適切な支援の提供

- ① 活動プログラムを固定化させない工夫は個人差があり何とも言えない
- ② 排泄の自立に対しての支援をお願いしたい
- ③ 長期休み中のプログラムの回数、種類が増えると良い
- ⑥ 日々の子供の様子をもう少し多く知りたい

#### C 保護者への説明等、事業所からの情報発信等

- ① ブログ、連絡帳、いっぱい通信等での情報発信を評価する。利用申請、欠席連絡等の電子ツール利用を期待する。面談は有難いが助言が少ない
- ② 保護者会等の交流の場の定期的開催をお願いする

#### D 非常時対応等の対応

- ① 防犯・避難訓練マニュアル、感染症対応マニュアルを整備し、見られるようにして欲しい。
- ② 防災訓練の内容を知りたい。
- ③ 子供達の避難訓練は今後も継続して欲しい。

#### E 満足度

- ① いつも丁寧にご連絡、支援を頂きありがとうございます。親子で支えています。
- ② 自立に向けて排泄サポートを充実して欲しい。



## 事業所内での分析

### 【共通点】

- ① 屋外活動に一定の評価と賛同。生活リズム、体力健康増進に必要なとの共通認識があります。
- ② 子ども達の個性と能力に気づき、高める専門的支援力向上を保護者は期待している。
- ③ 事業所の活動内容等の情報発信力を更に高める。ネットワーク活用の期待が大きい。
- ④ 保護者様との交流機会の継続と強化。親睦会等の継続を実現する。
- ⑤ 事業所ハード面の環境整備、安心・安全を最優先。スロープ設置、段差解消等。
- ⑥ 感染症、コロナ等の発症は今後も継続する事を前提として予防措置を継続実施する。

### 【相違点】

- ① 感染症対応、災害時の緊急対応等安全面での期待感が高い。対応マニュアル等の整備、閲覧、有事を想定した実践的訓練等の強化が急務である。
- ② 保護者様への情報発信の強化、保護者様との交流・支援・連携の場作りを強化する。
- ③ 支援の質を高める人材確保と計画的な職員研修等による人材育成を長期的視野で継続して行う。
- ④ 業務見直しによる無駄排除と効率化の推進、達成のための業務システムソフト等の導入と活用。
- ⑤ 計画相談事業所、行政等との連携強化、学校、療育センター、発達支援センター等専門機関との連携拡大を積極的に図る。地域交流の機会を具現化する。

## 分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- A 放課後等デイサービスの草分け、制度化以前からの長い支援実績を持った職員が多く、子ども達の成長変化、対応等に優れている。
- B 小学低学年からの長い利用で保護者様との関係性が深められ、課題等の情報共有を高め、連携した深い支援が出来ている。
- C 経験豊かな児童指導員等職員の配置高く、子ども達への支援の層が厚くきめ細かな支援サービスの提供が出来ている。
- D 長い運営実績の中で、関係機関との支援連携体制が出来ており質の高い広範な支援が可能である。
- E 長い経験から、送迎体制と送迎方法等のノウハウを培い、質の高い送迎が出来ている。

### 事業所の改善点

- A 老朽化施設で、安心・安全を優先したハード的な環境整備、バリアフリー対策、ソフト面の対策が必要。
- B 緊急対応等のマニュアル整備及び有事の際、確実に活動できる日頃の教育訓練の実施
- C 支援の質的向上強化のための継続した計画的、体系的な職員教育・研修機会の充実。
- D 専門知識、資格等を持った有資格者の効果的な活用と戦略的獲得。
- E 世代交代を考慮した若手職員の計画的育成。
- F 日報等記録業務の無駄の効率化、及び記録業務システムソフトの導入実現。
- G 情報発信力の強化を目指した情報ネットワークの改善と強化。
- H 保護者様との交流機会の強化と継続。

## 事業所の改善への取り組み

事業所の強みを最大限に生かしながら、事業所運営の戦略的改善を確実に根気よく取り組んでまいります。

- A ご利用者の安心・安全を第一優先に、危険の先取りと予期を絶やさず、ハード的な環境整備とソフト的な改善を全職員で行います。
- B 虐待・拘束防止対応、BCP作成、緊急時対応マニュアル類の整備を進め、併せて、有事の際、確実に活動できる避難訓練等の実施を定期的に行います。
- C 長年培った支援ノウハウを更に強化しながら利用児童、保護者様への支援力強化と情報共有の強化を図り、日々の活動での支援力を高めます。
- D 支援の質的向上を図る人材育成と獲得並びに専門知識、資格を保有した人材の有効活用を計画的に進めます。事業の世代交代を見据えた若返りを戦略的に進めます。
- E 記録等毎日の業務の見直し、無駄排除等の業務改善を進めます。又、改善、効率化のための業務システムソフトの導入を進めます。
- F コロナ禍で中断していた保護者様との親睦交流会等を強化します。同時にそれらを通じ、保護者様同士の連携の広がりを支援してまいります。
- G 保護者様を始め外部への情報発信力を強化します。「いっぱい」の理解者、ファンを増やすための情報発信、外部との連携活動を積極的に進めます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

コロナ禍後の支援活動の環境変化、同業放デイ事業所の急速な増加による競争の激化、発達障害児童の利用拡大による支援方法の変化等々、事業を取り巻く環境が激変しています。自己評価の再分析によりこれらの変化が一層明確になると共に、自分たちの強みを最大に生かした支援の差別化と専門化を強力に推進し、これらの変化に打ち勝ち、継続できる実力、老舗としての自信とプライドを改めて強く意識しています。

事業所名 いっぱい 放課後等デイサービス  
担当者 管理者 鈴木葉子、 統括 竹下 惇